The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ニュージーランドにおける日本に関する研究
Author(s)	コモンズ, アン
Citation	詞林. 2000, 28, p. 38-43
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67457
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ニュージーランドにおける日本に関する研究

アン・コモンズ

ニュージーランドの大学では、一九六〇年代から日本語が教えられているが、日本に対する興味や日本に関する研究が本格的に拡大したのは一九八〇年代末のニュージーランドやオーストラリアにおける所謂「ジャパン・ブーム」以降である。そのブームの主な原因は、ニュージーランドにとって日本が極めて重要な貿易相手国としての地位を占めるようになったことの認識にあるとされている。[1]このような日本との緊密な経済的関係を背景として、ニュージーランドには、日本に対する興味を持った人が比較的多い。マスコミでも日本に関する話題が多く、高等学校でも日本語は広く教えられているので、ニュージーランドで日本を研究する学者（オーストラリアの場合も）は研究環境に恵まれている。[2]一九九〇年代以降、日本語を勉強する学生は、日本の不景気のために、八〇年代に比べて減っているが、やはりある程度の関心は残っている。一九九四年のある調査によると、ニュージーランド人の日本語の学習率は〇・八二パーセントで、米国の場合（〇・〇二パーセント）の四〇倍以上であり、韓国（一・八八パーセント）とオーストラリア（一・〇二パーセント）に次いで世界で三番目に高い。[3]

しかし、語学としての日本語の教育を別にして、日本に関連する研究のうちどのような分野がニュージーランドで研究されているだろうか。また、ニュージーランドにおける日本に関する研究の中で日本文学の研究はどのような位置を占めるだろうか。本稿は、発行された資料やインターネット上の大学のホームページの調査に基づいて、ニュージーランドの高等学校から大学までの教育における日本に関する学習や研究、及び、日本文学の研究状況を報告するものである。

先ず、ニュージーランドで日本語を勉強する大学生の大学入学以前における日本語教育を見ると、日本語はニュージーランドの高等学校（日本の中学校二年生から高校三年生に当たる）[4]の大部分（三分の二、あるいは、四分の三という推定がある）で教えられている。まれに小学校で教えられることもある。[5]高校における日本語の学習と他の外国語の学習を比べると、従来は、フランス語が最も盛んだったが、ニュージーランドの世界観がヨーロッパを中心とした世界観からアジアを中心とした世界観に替わるに従って、高等学校でも日本語は人気のある科目になった。このことは、次のデータから明らかである。即ち、一九七七年にニュージーランドでフランス語を勉強していた高校生は四〇，八〇八人で、日本語を勉強してい

た高校生は一，七七一人しかいなかったが、その後、日本語学習者は徐々に増え、一九九四年には、日本語を学ぶ高校生は二六，六一五人となり、フランス語の二五，五五一人を初めて超えたのである。一九九九年には日本語学習者の人数は二二，一五五人で、フランス語学習者の二三，七〇五人を下回ってしまった[6]ものの、全般的に見れば、フランス語学習者の人数が減って、日本語のほかマオリ語も高等学校の科目としてかなり盛んになってきたと言える。そして所謂「ジャパン・ブーム」に続き、他のアジアの国の言語、特に中国語の学習に対する興味が増しているようだ[7]。高等学校のレベルで生徒が「就職の機会を増やす」という主に実用的な理由によって日本語の学習を選択したことは調査によって示されているが、職場などで使用できるほどの日本語能力を得るためにはさらに大学での学習が必要である[8]。

ニュージーランドの人口はおよそ三六〇万人で、大学は七つある。このうちの六つの大学といくつかのポリテクニック（専門学校）では、日本語の授業を中心とする日本関係の授業が受けられる。最初に日本語の授業を創立したのはマッシー大学で一九六五年、次いで、オークランド大学が一九六八年、ワイカト大学が一九七〇年に、日本語の授業を開始した。ただし、他に一九八〇年代の後半や一九九〇年代に開始した大学もある。

前述したように、ニュージーランドの高等学校では、日本語が広く教育されている。従って、既にある程度の日本語の学習の経験を持って大学の日本語授業を受ける一年生の人数は当然増えてきた。その結果として、日本語の授業を提供する大学の殆どがその学部の日本語科目を、日本語の経験のある学生向きの授業と、その経験を持たない学生向きの授業との両方を調えるように変更することが必要になった。ニュージーランドで最大の日本語学科はオークランド大学で、その日本語学習者の人数は他の大学よりかなり多いという。

ところが、ニュージーランドの大学の日本語の授業に対しては、コミュニケーション能力を強調しすぎて、大学院レベルの研究に進まない学生を多く生み出すという批判がある[9]。そこで、学部の日本関係教育の範囲を広めるために、単に日本語だけではなくて、日本の歴史や文学（原文のままあるいは英訳されたもの）、また、他の日本文化の側面についての授業などが、カリキュラムの一部として備えられてきた。さらに、学生が日本語を、例えば、法律学あるいは経済学あるいは商業学のような科目と一緒に勉強するようにも勧められている[10]。

また、日本語が大学生にとって人気のある科目であっても、日本関係の分野を研究している大学院生は比較的少ないという問題が指摘されることもある[11]。しかしながら、ニュージーランドに大学院生による日本関係の研究がないというわけではない。日本語・日本文化の授業のある大学はいずれも

大学院の授業があり、中には、特定の専門分野に力をそそぐ大学もある。例えば、オークランド大学の修士課程は特に言語学に焦点を当てており、マッシー大学やワイカト大学には日本語の教育学に関する専門的な授業がある。ニュージーランドで最も勢いのある日本関係の分野は、言語学、特に言語教育学という応用言語学であると言われており[12]、それはこのような特色のある科目にも示されている。

早く設立された日本語課程、つまり一九六〇年代や一九七〇年代から開始された課程は、言語と文学に集中する傾向があったが[13]、ニュージーランドと日本の関係という実用的な関心を反映した[14]経済学や商業学などの他の科目も、最近は盛んになってきた。ただし、大学教育科目全般を見ると、一九九八年にニュージーランドの大学で学生のおよそ四分の一が勉強した最も人気のある分野は、商業学とその関連科目[15]なので、このような日本語関係科目における展開はニュージーランドの大学教育の一般的な傾向に従うといえる。

さて、日本文学に目を向けると、ワイカト大学は、例外的に、日本の言語学・歴史・政治学という分野に集中しているが、ニュージーランドの日本語・日本文化の授業のある大学の殆どは、学部のレベルで日本文学（原文あるいは英訳）の授業があるようだ。しかし、従来、日本文学の研究が盛んだったオークランド大学では、秋間俊夫氏（万葉集、古事記、日本書紀）と伊藤節子氏（歌合）の引退によって日本文学の専門家はいなくなったようである。また、文学の授業を教える大学の教員は日本の近代文学を専門とする者が殆どである。オタゴ大学やカンタベリー大学の日本語課程は文学の面にかなり勢いがあるようで、オタゴ大学ではロイ・スターズ氏（日本の近代小説、特に川端康成、三島由紀夫、志賀直哉）やナンヤン・グオ氏（日本の近代文学と映画）、カンタベリー大学にはスーザン・ブーテリー氏（日本の近代女流文学、特に津島佑子）やチグサ・キムラスチーブン氏（日本の近代小説、特に夏目漱石）という日本文学の学者がいる。日本の古典文学や歴史に必要である文語の授業については、オークランド大学とカンタベリー大学にしか提供されていないらしいが、特に、カンタベリー大学の文語授業には漢文の学習も含まれているそうだ。しかし、ニュージーランドの大学には、英訳された日本古典文学が使われる学部のレベルの日本文学の授業がいくらあっても、古典文学を原文のままに扱う授業は、これら二つの文語授業のみである。

ニュージーランドで日本関係の分野を研究している大学院生に関する情報は、なかなか見つけにくいが、調査によると、一九九六年にニュージーランドで日本関係の博士論文を書いていた研究者は一〇人で、そのうち、ペネロピー・シノ（「正徹の和歌と歌論」）、スーザン・ブーテリー（「津島佑子」）、土谷桃子（「一九世紀の文学と社会」）という三人が文学に関する研究をしている[16]。後にその三人は皆ニュージーランドの大学で

日本語・日本文化を教えることになった。

オーストラリアの大学における日本関係の分野の研究は比較的盛んであるが、そのうちの日本文学の学習については、最近の記事はその位置を「脆い」とし、かなり悲観的である。[17] ニュージーランドでも日本関係の分野として文学より商業学や言語学などの学習者の人数が明らかに多い。さらに、文学のように学生の人数が少ない授業は、予算的に大学に承認されがたく、開講されにくいという問題もあるようだ。しかし、ニュージーランドの日本語・日本文化の授業を提供する大学の殆どに日本文学の専門家がいることは、全国の大学で日本文学が比較的に広く教えられていることを示していると言えるだろう。ただし、その中心は近代文学らしい。この点に問題がないとは言えない。ニュージーランドで研究されている日本関係の分野に中世史や中世文学の研究を発展させることが必要だと指摘されることがある。[18] オークランド大学の古典文学の専門家の引退によって、この問題は日本の上代・中古文学にも及ぶだろう。また、日本語が母語ではない日本関係の分野の学者も日本語で書いて出版される論文の数を増やすべきだという批判もある。[19]

全般的に、ニュージーランドの日本に関する人文科学の分野における研究の状態はかなり多様的で健全だといわれている。[20] アジア学に関する学術団体もある。一九七四年に設立されたニュージーランドアジア学会の目的は、アジアの歴史・文化・国際的な役割についての知識を広めることだという。一九九三年から機関誌を発行している。[21]

ニュージーランドでは、日本語・日本文化の学習が盛んになってきたが、高校生や大学生の関心がこのように他のアジアの国々に対しても徐々に増している状況において、日本語・日本文化に関する研究が今後どのように進展するかという問題は興味深いだろう。

注

(1) Purnendra Jain, "Introduction," *Australasian Studies of Japan* (Rockhampton: Central Queensland University Press, 1998), 1.

(2) J.A.A. Stockwin, "Japanese Scholarship in Australia and New Zealand: An International Perspective," in *Australasian Studies of Japan*, ed. Jain, 14.

(3) Ken Henshall, "Japanese Studies in the Social Sciences in New Zealand," in *Australasian Studies of Japan*, ed. Jain, 304.

(4) John Hundleby ジョン・ハンドルビー「ニュージーランド」(『海外就職日本語を教える2000年版』アルク・1999年・P.78)

(5) J.A.A. Stockwin, "Overview: Japanese Studies in Australia and New Zealand," in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation (revised edition, Tokyo: Japan Foundation; Canberra: Australia-Japan Research Centre, Australian National University, 1997), 11; Roger Peren, "Japanese Studies in New Zealand," *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 114.

(6)「日本語又はフランス語を勉強していた高校生の人数」(mate-

rial supplied by John Hundleby, Director, New Zealand Japan Centre, Massey University)

(7) New Zealand Ministry of Education, "July 1999 Statistics: Subjects at Secondary and Composite Schools" figure 3, "Number of Secondary and Composite School Students Studying Languages in 1990, 1995 and 1999," Ministry of Education web site.

(8) Terrence Aschoff, *Reasons for Studying Japanese Language in New Zealand Secondary Schools*, New Zealand Centre for Japanese Studies Working Paper No.3 (Palmerston North: New Zealand Centre for Japanese Studies, 1992), 15; Aschoff, 14.

(9) Thomas Leims, "The University of Auckland," in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 118.

(10) Peren, 113.

(11) Leims, 118.

(12) Henshall, 303.

(13) Henshall, 303.

(14) Jain, 8.

(15) New Zealand Ministry of Education, "Tertiary Education Statistics 1998," Ministry of Education web site.

(16) Japan Foundation, *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, 407-409.

(17) Alison Tokita, "The Place of Literature in Japanese Studies Today," *Japanese Studies Bulletin* 14:3 (1994): 2, quoted in Orie Muta, "Studies of Japanese Literature in Australia," in *Australasian Studies of Japan*, ed. Jain, 231.

(18) Henshall, 310.

(19) Henshall, 310.

(20) Henshall, 311.

(21) New Zealand Asian Studies Society web site.

参考文献

印刷物

Anasz, Wanda. "Massey University." in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 126-128.

Aschoff, Terrence. *Reasons for Studying Japanese Language in New Zealand Secondary Schools*. New Zealand Centre for Japanese Studies Working Paper No.3. Palmerston North: New Zealand Centre for Japanese Studies, 1992.

Henshall, Ken. "Japanese Studies in the Social Sciences in New Zealand." in *Australasian Studies of Japan*, ed. Purnendra Jain, 301-312.

Hundleby, John ジョン・ハンドルビー「ニュージーランド」(『海外就職日本語を教える2000年度版』アルク・1999年・P.78 - P.79)

Hundleby, John ジョン・ハンドルビー「日本語又はフランス語を勉強していた高校生の人数」(in untitled materials)

Jain, Purnendra C. ed. *Australasian Studies of Japan: Essays and Annotated Bibliography*. Rockhampton: Central Queensland University Press, 1998.

Japan Foundation. *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*. Revised edition. Tokyo: Japan Foundation; Canberra: Australia-Japan Research Centre, Australian National University, 1997.

Keating, Pauline. "Victoria University of Wellington." in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 130-132.

Kimura-Steven, Chigusa. "The University of Canterbury." in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 122-123.

Leims, Thomas. "The University of Auckland." in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 118-121.

McNeil, Ken. "The University of Waikato." in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 133-135.

Muta, Orie, "Studies of Japanese Literature in Australia," in *Australasian Studies of Japan*, ed. Purnendra Jain, 226-233.

Roger Peren, "Japanese Studies in New Zealand," in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 113-115.

Stockwin, J.A.A. "Japanese Scholarship in Australia and New Zealand: An International Perspective," in *Australasian Studies of Japan*, ed. Purnendra Jain, 14-25.

Stockwin, J.A.A. "Overview: Japanese Studies in Australia and New Zealand," in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 11-22.

Trotter, Ann. "The University of Otago." in *Directory of Japanese Studies in Australia and New Zealand*, ed. Japan Foundation, 129.

インターネット（二〇〇〇年八月現在）

ウェリントン・ヴィクトリア大学ホームページ http://www.vuw.ac.nz/home/ undergraduate/subject/japa.html

オークランド大学ホームページ http//:www.arts.auckland.ac.nz/asi/ ; http://www. auckland.ac.nz/aucourses/undergraduate.ptml

オタゴ大学ホームページ http://www.otago.ac.nz/japanese

カンタベリー大学ホームページ http://www.asia.canterbury.ac.nz/

New Zealand Asian Studies Society ホームページ http://www.nzasia.waikato.ac.nz/ nzasia.htm

New Zealand Ministry of Education, "July 1999 School Statistics: Subjects at Secondary and Composite Schools" figure 3, "Number of Secondary and Composite School Students Studying Languages in 1990, 1995 and 1999," Ministry of Education web site リターンーリンハと文部省ホームページ http://www.minedu.govt.nz

New Zealand Ministry of Education, "Tertiary Education Statistics 1998," Ministry of Education web site.

マッシー大学ホームページ http://www.massey.ac.nz/~wwlang/easia/japan1.html

ワイカト大学ホームページ http://www.waikato.ac.nz/wfass/subjects/japanese/

（Ann Commons　ロロンとと大学博士課程）